

めじろむつみクラブ(MMC)会報

〔第27号〕 2013年(平成25年)8月31日発行

特定非営利活動法人(NPO)
めじろむつみクラブ(MMC)事務局
住所:八王子市めじろ台2-37-12
tel:080-1038-6875
<http://www.hachioji-mmc.com/>

地域の皆様! 焼けつく連日の記録的猛暑、局地的豪雨! 更には熱中症が心配される中、如何お過ごしですか、お見舞い申し上げます。休養第一、早めの予防こそ最優先です、お大切に。

MMCは発足してから11年になり、お陰様で地域の皆様の信頼を頂き、会員がめじろ台から周辺地域にも拡がり年々増加しております。

主要事業は庭木の手入れ、草刈り、家屋内外の改修全般であり、作業後の会員からの喜びの声こそ、何事にも替え難い至福のひと時です。また公共施設の補修の他、各町会の環境施設管理などもお受けさせて頂いております。更に地域交流のための文化的催しとして趣味の作品展、コンサート、寄席、講演会など、どなたも参加できる楽しい行事ですので大いにご期待下さい。

MMCは今後とも高齢者支え合いのNPO法人として地域のまちづくりに貢献して参ります。
(理事長 高橋光男)



1. 広報はちおうじ(7/1号、No.1282)にMMC紹介される!

「踏み出してみませんか。市民活動への一歩」というタイトルで市内にあるNPO法人約250団体の中から3団体が紹介され、うち一つがMMC。

6月初め、市・都市戦略室(広報担当)の取材に対し、高橋理事長のほか東、佐藤、北澤、坂元の4理事が、めじろ台第一会館で対応しました(右写真)。

紹介内容は下記の通りです。

「元気なお年寄りが手助けを必要としているお年寄りを支える」をモットーに

- * 庭木の手入れ、障子の張り替えなど生活支援事業を行っている。
- * 講演会、趣味の作品展、寄席、コンサートなど地域の交流を深めることも行っている。
- * 今後も高齢者同志の支え合いの輪を広げ、まちづくりに貢献していきたい。



2. 25年度のMMC総会 無事終了

5月26日、13時30分~15時までライオンズマンション集会室で正会員参加の下、MMC総会が開催され、24年度事業報告、25年度予算及び事業計画が全員一致で承認されました。

3. 25年度作業状況

(1)生活支援事業

4月1日から8月16日までの作業件数は54件(前年度は56件)、金額面で年初計画の42.6%を達成しています。

植木剪定、除草作業以外に変わった作業としては、パソコン操作講習、物置屋根漏水補修、カーポート屋根張替え(右写真)、ネコ走行防止ネット張り、植木水遣り、水道蛇口水漏れ補修、不用材運搬処分他家屋内外の仕事も行っています。



(2) 地域交流事業

1) 有償作業

作業箇所は延べ 5 件(前年度は 5 件)で、金額面では年初計画の 47.2%です。

今回も各町会を通しての空地の草刈処分の他に、打合せ等に使用させて頂いている「風の会の家」の外壁補修作業も行っています。

また駅前ロータリーに設置してある喫煙所灰皿の掃除を町会から依頼されてほぼ毎日行っています(右写真)。



4. 今後のイベント(計画)

以下の計画はいずれも詳細決定次第、チラシなどでお知らせします。

(1) MMC 趣味の作品展

地域の皆様と築き上げた文化事業「趣味の作品展」も 9 回目を迎えます。より一層多くの方々に参加いただきたく新たに専門委員会を立ち上げました。過去の出展者の方々のご意見ご要望をお聞きすると共に、作品展開催のPRの仕方、参加申込の簡素化、会場のレイアウト、作業者の確保など検討しております。

今年も多くの皆様の出展、来場をいただけるよう最善を尽くします。ご協力お願い申し上げます。

* MMC 作品展専門委員会(メンバー)

高橋光男、東隆夫、佐藤正一、神田稔、柳隆雄、池田太、田中俊光、加藤幸子、北澤昇

開催日: 11月3日(日) ~11月4日(月)、会場: めじろ台第一会館 (地域交流担当)

(2) クリスマスコンサート

今年のコンサートは、めじろ台在住のギタリスト小川和隆さん(東京芸大卒)をお招きして、12月1日(日)か翌週の8日(日)に開催しようと現在詰めています。

小川さんは、スペインのギタリスト・ナルシソ・イエペス(映画「禁じられた遊び」の音楽演奏で有名)に十弦ギターを学び、第22回東京国際ギターコンクールで第1位を受賞、広範な音楽活動を行っています。お楽しみに。(講座開催事業担当)

(3) 恒例の大学落研による「めじろ寄席」は来年2月または3月に開催予定です。

(講座開催事業担当)

5. 新会員の紹介

25年度に入り木暮陽子、神田雅弘、久保木浩介、矢崎鈴子さんが入会されました。退会者を除くと総会員数は 169 人になりました。

6. 事務局便り

市民活動支援センターの依頼により法政大学 3年生 1人のインターン・シップを受け入れることにしました。

本人は将来地方公務員に就職志望だそうで、私たちのNPO法人が地域の住民や町会と密接に関わっていることを学び、将来に生かせられるようにしたいとのこと。

数日ではありますが実際の作業に参加させ、見積りや作業手配、書類作成などについての手法を指導する計画です。



7. 講演会 「大震災時 めじろ台地区はほんとうに大丈夫か？」

- * 日時: 6月8日(土) 13:30~16:15
- * 場所: ライオンズマンション集会室
- * 講師: 防災士・石塚 完さん
- * 参加費: 300円
- * 入場者: 40人

かなりショッキングな演題でもあり、多数の入場者を予想していたが、やや期待はずれだった。

大震災時、めじろ台地区は岩盤上にあり、全く問題ないという神話で42年間生活してきた筆者だが、きょうの講話で覆ってしまった。

日本列島は毎日揺れている。漠然とした不安感、根拠のない安心感を取り除くことが大事という。



(1) 講師は中学時代に新潟沖地震に遭遇し、その頃の思いと阪神淡路大震災時の西宮市仁川百合野地区の住宅街の盛り土による地滑り被害等を見、退職後、自らが住む八王子市長房地区の安全性を確認したため防災士資格を取った。

(2) めじろ台地区は大震災時、建物倒壊度、火災危険度、総合危険度は、ほとんど危なくないランク付けではあるが、一様に全く問題ないということではない。ただ火災危険度は低だろう。

地震の揺れは同じ5弱であってもめじろ台地区全体は揺れやすく、地区の中でも震度は違う。

3. 11の時、八王子市は震度5弱が多かった。5弱になるとガスは自動的にメーターが落ちる。めじろ台でもガスメーターの落ちたところと落ちなかったところがあった。

(3) 足元に潜む危険に注意すること。

土地は海、家は舟と考えてよい。めじろ台地区を含めて新興住宅街の造成地の盛り土地盤は地震動を増幅する性質がある。

盛り土造成地については、都道府県ごとに公表されているが、東京都を含め9つの自治体は公表していない。但し都公文書館(世田谷区二子玉川)で調べることはできる。

めじろ台地区では、30~40mの尾根を削って埋め立てたところがある。

駅周辺でも5m、ところによっては13m~14mの盛り土場所がある。造成年代が新しいほど被災率は少ない。

わが町は、そこに住む人が一番よく知っていなければならない。地下水などを含めて地形図で理解を深めることが大事。「天災は忘れたくところ」にやってくる。

東京都耐震ポータルサイトで自己診断が可能だ。

(4) 防災は自分自身のためで、まずは自分が助かること。

阪神淡路大震災の時、自助、隣近所(共助)で97.5%が助かっている。被害の78%が圧死、窒息死であり、家具を固定する、建物(特に1981年以前の本造)を耐震構造にすれば、死は免れるはず。

長くいる時間を過ごす場合、2階の方が安全。



(5) 復旧までに電気6日間、水道30日、ガス50日を要する。これを前提に水も最低6日間は確保しておくように。水道水でも3日間程度は腐らないので、3日経ったら、水撒き用に使って保存を繰り返す方法もある。
給水拠点(狭間、散田にある)の確認とポリ缶で水を拠点まで取りに行くことを想定して、台車を買っておくことも考えておく。

(6) 地域の防災活動について:

各人が「本気になって」取り組むことが大事、かつ実践的な取り組みをすること。

- ① ステップ1. 被害を想定する
- ステップ2. 対策を検討する
- ステップ3. 実践で検証する
- 以上によって地域防災の高度化を目指すこと

② ご近所マップの作成:
ボール、はしご、車いすを持っている、
看護師、救急救命資格者の住まいなど
各家ごとに落とし込んで作成する。

③ 近くの消火栓から住民がスタンド
パイプを使い消火にあたる訓練を。
八王子市でも検討中。

④ 防災倉庫に何があるかを確認しておく。

⑤ 災害伝言板(電話)No.171で訓練をしておく。

⑥ AEDは2分間以内であれば50%助かる。であれば人工呼吸で対応するのが現実的。
そのためにどのくらいの力で押せばよいのか、訓練用器具も売られている。

⑦ 屋根のぼり訓練もある。ブルーシートの掛け方。危険が伴う。より若い人を養成しておく。

(7) その他:

① 散田架道橋の道路壁面には水の流れ込み状態の目安となる目印が書かれてある。
80cmで車のドアは開かなくなるので車を降りて避難すること。

(講座開催事業担当)

